

## 「P C B 廃棄物収集運搬の基本的考え方（案）」について

P C B 廃棄物については、長年の保管により紛失・不明が起こり、P C B による環境汚染の進行が懸念されるため、早期の処理を推進することが必要不可欠であり、平成 13 年度より、環境事業団により全国 6 箇所程度の処理施設を整備することを念頭に置いて P C B 廃棄物の本格的な処理体制の整備に着手したところ。

しかしながら、こうした処理施設の稼働にあわせ、自動車、鉄道、船舶等様々な輸送モードを活用しつつ広域的に P C B 廃棄物を収集・運搬する必要がある、安全性・効率性を確保した収集運搬システムの整備が不可欠であるが、これまで P C B 廃棄物を長距離かつ大量に輸送した実績はほとんどない。

そのため、様々な輸送モードによる P C B 廃棄物輸送の本格化に先立ち、(財)産業廃棄物処理事業振興財団に「P C B 収集運搬技術調査検討委員会（委員長：田中 勝 岡山大教授）」を立ち上げ、委員として、学識者の先生に加え、北九州市等 P C B の取り組みを進めている自治体、オブザーバーとして経済産業省、消防庁、厚生労働省、国土交通省に参画いただき、さらに、民間の収集・運搬業者の協力も得て、P C B の収集運搬についての基本的考え方をとりまとめたもの。

内容は、廃棄物処理法の P C B 廃棄物に係る収集・運搬の基準の見直しも念頭に置きつつ、P C B 廃棄物の収集・運搬について、積み込み・積み下ろし、収集・運搬、積み替え・保管の各段階それぞれの技術的要件に加え、運搬車両・船舶及び運搬容器の構造・取扱い方法、事故対応、維持管理・運行管理方法等についてとりまとめている。

検討にあたっては、国内関連法規に加え、世界的標準である「危険物の輸送に関する国連勧告」を加味した。

議論の過程で課題として挙げられ、当該委員会で結論が得られなかった内容については、今後の検討課題として整理しており、引き続き内容を深度化し、ガイドラインとしてまとめていく予定である。